

トビウオ通信 (R6 第3号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《令和6年度上半期浮魚中長期漁況予報》

2023年度第2回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報（令和6年3月26日発表 国立研究開発法人水産研究・教育機構（以下、水産研究・教育機構）より、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚の令和6年度上半期（4月～9月）の中・長期的な漁模様の予測をします。

山陰沖における漁況(来遊)予報〔令和6年度上半期(4～9月)〕

マアジ:前年並み

マサバ:前年並みか前年を下回る

マイワシ:前年並みか前年を上回る

ウルメイワシ:前年並み

カタクチイワシ:前年並み

※本文中で「上半期」は4月～9月、「下半期」は10月～翌年3月（令和6年3月は速報値）、「平年」は過去5年（令和元年～令和5年）の平均値、「前年」は令和5年度上半期を示します。

マアジは前年並み

東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和5年11月～令和6年1月の漁獲状況は、前年・平年を下回りました。また、島根県から青森県までの漁獲状況は、前年・平年並みでした。

島根県の中型まき網によるマアジの漁獲量は、平成19年度から平成30年度にかけて、約2万～4万トンで推移していましたが、直近4年は1万トン前後で推移しています（図1）。令和5年度下半期は4,252トンで、前年同期（5,010トン）の85%、平年同期（4,091トン）の104%でした。

今後の予報

水産研究・教育機構によると、令和6年度上半期の日本海の漁況は前年並みで、平年を下回ると

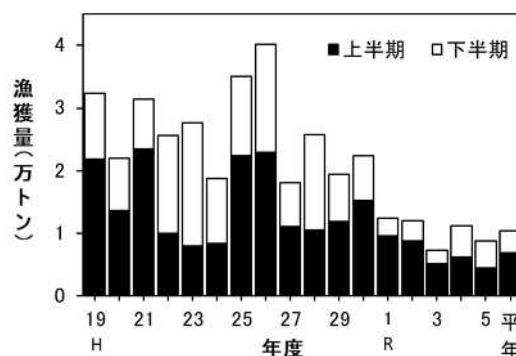


図1. 島根県の中型まき網によるマアジ漁獲量の推移（平年はR1～R5の平均値）

予測されています。山陰における令和5年度上半期の漁況は、漁獲の主体となる1歳魚（大きさ15～20 cm：令和5年生まれ）と2歳魚（大きさ20～25 cm：令和4年生まれ）の山陰沖への来遊状況と夏季以降に漁獲対象となる0歳魚（大きさ5～15 cm：令和6年生まれ）の加入状況によって決まります。1歳魚の資源水準は、マアジ新規加入量調査^{※1}の結果（図2）から、前年並みか前年を下回ると予測されます。また、2歳魚の資源水準は前年並みとされています。0歳魚の資源水準を予測するのは困難ですが、東シナ海におけるマアジの稚魚の分布量と高い相関が見られる4月半ばの好適水温帯面積は、令和6年は前年を上回ると見込まれており、親魚となる1～2歳魚の資源量も考慮すると0歳魚の資源水準は前年並みと考えられます。以上のことおよび直近の漁獲動向から令和6年度上半期の漁況は、前年並みと予測します。

※1 マアジ新規加入量調査：マアジ0歳魚の加入量を早期に把握するための調査

※2 加入量指数：マアジの新規加入量調査においてその年の0歳魚の加入量を数値化したもの。なお、平成15年を1としている。

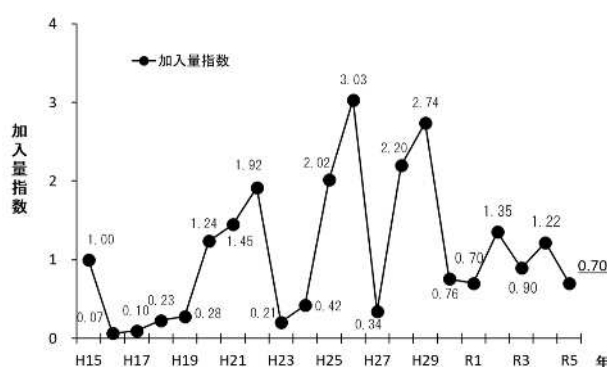


図2. マアジ新規加入量調査による加入量指数^{※2}

マサバは前年並みか前年を下回る

東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和5年11月～令和6年1月の漁獲状況は、前年・平年を上回りました。また、島根県から青森県までの漁獲状況は、前年並みで、平年を上回りました。

島根県の中型まき網によるサバ類（島根県で漁獲されるサバ類はほとんどがマサバ）の漁獲量は、盛漁期にあたる下半期の推移をみると、平成18年度以降では約3千～2万トンの間で増減を繰り返しています（図3）。

令和4年度以降は、上半期の漁獲量が下半期より増加し、1万～1万5千トンで推移しました。令和5年度下半期の漁獲量は3,972トンで、前年同期（3,020トン）の132%、平年同期（4,830トン）の82%でした。

今後の予報

水産研究・教育機構によると、令和6年度上半期の日本海の漁況は、特異的に好調だった前年を下回り、平年を上回ると予測されています。山陰における令和6年度上半期の漁況は、1歳魚

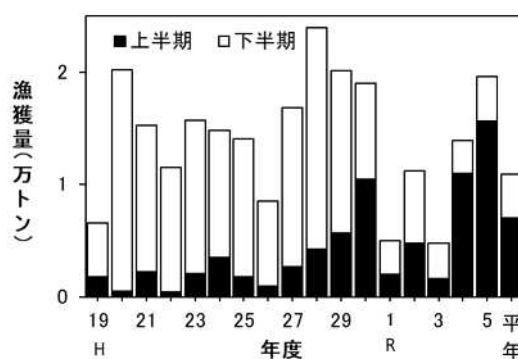


図3. 島根県中型まき網によるサバ類漁獲量の推移（平年はR1～R5の平均値）

（大きさ 25～30cm：令和 5 年生まれ）と 2 歳魚（大きさ 32 cm以上：令和 4 年生まれ）が漁獲の主体となり、夏季以降は 0 歳魚（大きさ 15～20cm：令和 6 年生まれ）も漁獲されます。1 歳魚及び 2 歳魚の資源水準は前年並みと予測されていますが、島根県は令和 4 年度～5 年度上半期が特異的な好漁であったことから、令和 6 年度上半期の漁況は、直近の漁況から好調だった前年並みか前年を下回ると予測します。

マイワシは前年並みか前年を上回る

東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和 5 年 11 月～令和 6 年 1 月の漁獲状況は、前年を上回り、平年並みでした。また、島根県から青森県までの漁獲状況は、前年・平年を下回りました。

島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は、平成 19 年度～平成 22 年度は低調に推移しましたが、平成 23 年度から増加し（図 4）、平成 26 年度を除いて約 1 万～4 万トンで推移しています。令和 5 年度下半期の漁獲量は 9,020 トンで、前年同期（17,547 トン）の 51%、平年同期（10,578 トン）の 85%でした。

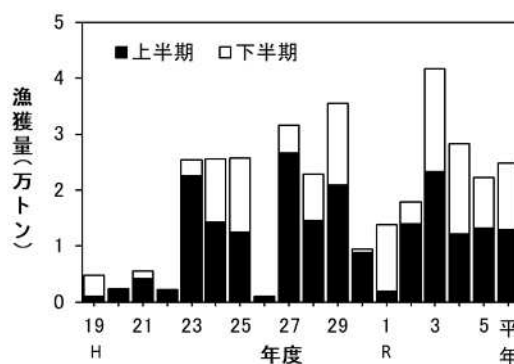


図 4. 島根県中型まき網によるマイワシ漁獲量の推移 (平年は R1～R5 の平均値)

今後の予報

水産研究・教育機構によると、令和 6 年度上半期の日本海の漁況は、前年並みで、平年を下回ると予測されています。山陰における令和 6 年度上半期の漁況は、漁獲の主体となる 1～2 歳魚（大きさ 15～20 cm：令和 4 年～令和 5 年生まれ）と夏季以降の 0 歳魚（大きさ 15 cm以下：令和 6 年生まれ）の来遊量で決まります。1～2 歳魚の資源水準は前年並みと考えられます。また 0 歳魚の予測は困難ですが、令和 5 年 2 月から 6 月の産卵調査で九州北西沖において 1970～1980 年代に匹敵する卵が確認され、1 歳魚の加入が好調であることから、来遊量は前年並みか前年を上回る可能性があります。令和 6 年度上半期の漁況は、資源水準が増加傾向であることから、前年並みか前年を上回ると予測されます。

ウルメイワシは前年並み

東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和 5 年 11 月～令和 6 年 1 月の漁獲状況は、前年・平年並みでした。

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、平成 25 年度までは下半期の漁

獲量が多い傾向にありましたが、近年は上半期の漁獲量が多い傾向にあり、特に令和3年度以降は漁獲量の大部分を上半期が占めていました。一方、下半期の漁獲量は減少傾向にあります(図5)。令和5年度下半期の漁獲量は2,625トンで、前年同期(158トン)の1,661%、平年同期(1,630トン)の161%でした。

今後の予報

山陰における令和6年度上半期の漁況は、1～2歳魚(大きさ18cm以上：令和4年～令和5年生まれ)と夏季以降の漁獲に加わる0歳魚(大きさ5～15cm：令和6年生まれ)が漁獲の主体となります。1歳魚の資源水準は、中層トロール調査等から前年並みとされています。0歳魚の資源水準を予測するのは困難ですが、親魚の状況から前年並みと考えられています。以上より、令和6年度上半期の来遊量は前年並みであると予測されており、島根県の漁況も前年並みと予測されます。

